

今年度、6月から取り組んだ「地域貢献活動」も2月で15回となり、参加生徒は33名、延べ人数では77名にもなりました。以前も触れましたが、部活動や習い事などで休みの日も忙しい子どもが増えている中、この「地域貢献活動」に自分の時間を割いて参加してくれたのは嬉しいかぎりです。この活動がもっと地域の方にも認知され、内容も回数も増え、本校の取り組みとして根付いていくことを願っています。声掛けや送迎に協力いただき、ありがとうございました。

参加回数が多かった3名の感想を紹介します。

8回 7年生 矢幡 宝貴くん

僕はボランティア活動に軽い気持ちで参加していたけど、何回もやっていくうちに楽しくなってくるので、みんなにもぜひやって欲しいです。ボランティアに参加してみて、何にでもチャレンジすることが大切だと思うようになりました。



7回 8年生 向井 孝くん

ボランティアは少しでも大山の力になれば…という思いでしてきました。主に食堂ボランティアに参加しましたが、どの活動もとてもやりがいがあり楽しかったです。今回、最多参加回数 第2位という称号を得られたのでとても嬉しいです。

6回 7年生 河津 健太くん

僕がボランティアに参加して思ったのは、考えていたより大変だったということです。雑務や力仕事もします。食堂ボランティアではお客さんが増えた時が大変でした。でもお礼を言われたりして嬉しかったです。



前号でもお知らせした「地球さんご賞 作文コンクール」の入選者を紹介します。

- 入選 ○「みんなの川」8年生 井上 弥太郎くん
 ○「楽しかった虫とり」8年生 川速 煌紗さん
 ○「環境問題について私たちが考えること」8年生 黒川 涼くん
 ○「自分ができる最低限のこと」8年生 江田 楓華さん
 ○「大山の自然を守るために」8年生 竹田 穂乃香さん
- 優秀賞 ○「地球の声」7年生 河津 斗李くん
 ○「ダムが与える環境問題」8年生 栗野 武美くん
 ○「心理学と環境問題」8年生 向井 孝くん
 ○「日田のゴミは誰が落としているのか」9年生 河津 丈介くん
 ○「自然豊かな大山と地球温暖化」9年生 吉野 可純さん



作品集は受賞者全員に配布されました。学校にもいただきましたので、図書室に置いています。来校の際にご覧ください。

～ひとりごと～ 先日、県内でも結構有名な温浴施設に行った時の話です。大学生らしき6人組が入ってきました。6人そろって洗い場に並んだり、浴槽に浸かったりして、きっと仲良しグループなのだろうということが想像できました。そのうち、水風呂の水を掛け合いながら遊び始めたのです。「キャッキヤ」言いながらそれは楽しそうでした。この光景を見て「無邪気な大学生」と思うのか、「モラルのない大学生」と思うのか……。私は後者でした。見かねて注意しに行こうと思ったら、「他のお客さんがいるから奇声はやめようよ」という声が聞こえました。やめるのは「水遊び」ではなく「奇声」なのね…と少し残念に思いながらも、「へえ、こんな子もいるのだ～」と感心しました。結局、その一言で水遊びもやめたのですが、水遊びを1人ではやらないでしょう…。きっと2人でもやらないでしょう…。集団心理とは怖いもので、本来なら悪いことや危険なことでも、集団になると責任感や罪悪感が薄れて堂々で行えたりします。そのことを表した言葉として「赤信号、みんなで渡れば…」というのがありましたよね。集団での行動を自分たちで律するって、その集団の人数が多ければ多いほど難しいと思います。普段からそんなことが言い合える6人なのだと勝手に思い込みましたが、そんな関係性って素敵だと思います。そもそも「水遊びをするんじゃない」とは思いますが…。本校の生徒たちもこれから出会うであろうたくさんの人と、そんな関係を作って欲しいし、律する発言ができる人になって欲しいと思った出来事でした。